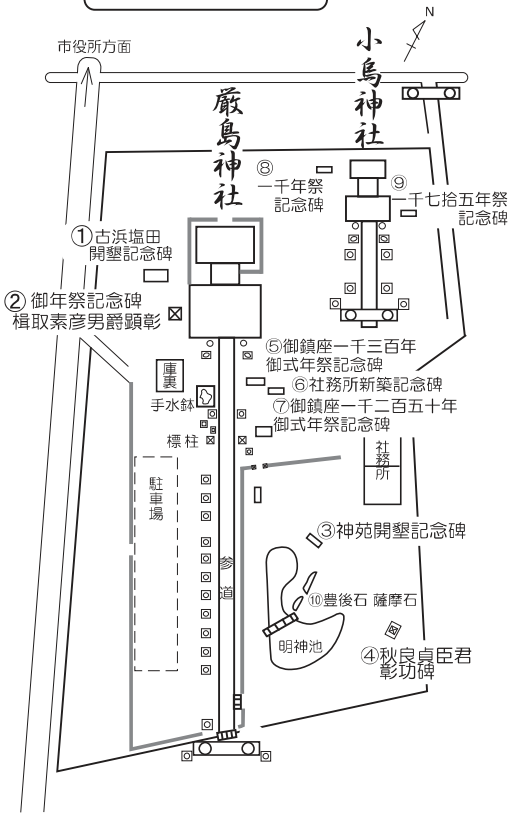
厳島神社境内の石碑

①古浜塩田開墾記念碑
②御年祭記念碑楫取素彦男爵顕彰
③神苑開墾記念碑
④秋良貞臣君彰功碑
⑤御鎮座一千三百年御式年祭記念碑
⑥記念碑社務所新築記念碑
⑦御鎮座一千二百五十年御式年祭記念碑
⑧一千年祭（小烏神社）
⑨一千七拾五年祭記念碑（小烏神社）
⑩豊後石 薩摩石

石碑配置図



①古浜塩田開墾記念碑

三田尻大開作（新田小浜地区）は元禄十二年（一六九九）八月六日干拓が着手され、延六万七千九百六十人を要して閏九月二八日に完成。それから二百年後の明治十八年（一八八五）古浜の塩業者が二百年祭を行い建立した。

碑文（漢文和訳）

防の洲たる、山を負い海に臨み、膏腴沃饒（こうようよくじょう）なり。而して、佐波郡槻田は又其の最なるものなり。経緯　凡そ五百町ありて、塩田これに間（まじわ）る。初め郡の鞠生浦に松林有りて、林中に厳島神社を奠す。海水渺茫（ひょうぼう）として、その林麓を浸し、未だ曽て一畝の田も有ざるなり。太守毛利公嘗て其の地を相して謂（おも）へらく 以て大いに土田を開く可しと。奮然として不朽の業を立てんと欲す。貞享二年（一六八五）乙丑九月の望、始めて鋤を執つて事に就く。是れ霊元帝即位の二十三年なり。超えて三年（一六八六）丁卯十一月捍（防）潮の堤成る。乃ち大いに役を興す。民以て労と為さず。皆争うてこれに赴き、日に就り月に将み地を開くこと若干にして、滄海変じて平田と為る。然れども、其の事重大なるを以て、未だ大成を観るに及ばず。公、元禄二年（一六八九）己巳四月十七日を以て、江都麻布邸に卒す。享年五十有一なり。

泰巌公と諡（おくりな）す。諱（いみな：ほんみょう）は綱広といい、元就五世の孫なり。其の民事に功有ること、甚だ博うして、享年長からず。人皆痛惜す。その子寿徳公、青雲公相継いで業を承け、又、事に従う。茲（ここ）に於て大いに竣功を告ぐ。蓋（かい）し創業より此に至るまで、終始十有七年にして成る。厳島神を以て総開墾地の鎮守と為し社殿を修め、これを落して、以て泰巌公の志を終う。是れ東山帝即位の十五にして、実に元禄十四年（一七〇一）辛巳（かのとへび）三月十七日なり。寿徳公諱は吉就といい、元禄七年（一六九四）甲戌（きのえいぬ）二月七日、江都桜田邸に卒す。享年二十有七年なり。青雲公諱は吉広といい、宝永四年（一七〇七）丁亥（ひのとい）十月十三日、江都桜田邸に卒す。享年二十有五年なり。

尓来（じらい）地益々開け、民益々殖え、家々足り人々給して炊烟（すいえん）断たず。凶年飢歳と雖も復た菜色の患無し。所謂、盛徳至善にして、民の謖（わす）るる能はざる者は、それ斯（ここ）に在るか、塩田凡そ二百三十余町あり。分ちて四と為す。古浜といい、鶴浜といい、中浜といい、大浜という。皆漸を以て成れるものなり。而して古浜の成、最も先に居り。其の民四十戸あり。感旧の懐（かい）に堪えず。相与（とも）に倶（とも）に謀（はか）りて明治十有八年（一八八五）十一月、二百年祭を行う。其の数に当れるを以てなり。又、之れを不朽に伝へんと欲し、碑を建て銘を余に乞う。銘に曰く

偉なる哉田功　庶民来り同ず　畎（けん）に畝（ほ）に 溝洫維（こうきょくこ）れ通じ
其の黍（きび）其の稲 既に稼（か）し 既に穡（しょく）す 塩利亦多く 民悉（ことごと）く貨殖して
和楽し且つ湛（やす）し 慶は仍孫（じょうそん）に迨（およ）び 三公の一徳 永世諼（わす）れず

明治二十年（一八八七）丁亥八月

浪華　関　延永謹撰
波部　敬　書

②御年祭記念碑楫取素彦男爵顕彰

明治二十九年（一八九六）千二百二十年式年を迎えた厳島神社式年祭と楫取素彦男爵を顕彰した記念碑

楫取素彦の功績

文政一二年（一八二九）萩に藩医松島瑞蟠の次男として生まれ、大正元年（一九一二）三田尻にて八四歳で死去の生涯において、萩明倫館での指導、吉田松陰の顕彰に尽力、三田尻越氏塾などでの教育、藩主に従って江戸・京都・防長の間を東奔西走、四境戦争では長州藩兵上京の命を受け、諸隊参謀として小烏神社より出征、明治維新後、群馬県県令、元老院議官、高等法院陪席裁判官・貴族院議員・宮中顧問官などを歴任、また貞宮多喜子内親王御養育にも携わる。明治二〇年（一八八七年）男爵を授けられ、貴族院男爵議員に就任。明治三二年引退の後は三田尻にて晩年を過ごす。没後に正二位を追叙、勲一等瑞宝章を追贈される。

③神苑開墾記念碑

康応元年（元中六年、一三八九）大内義弘が　将軍足利義満を松原の地に迎えた。足利義満の部下今川貞世は、鹿苑院殿（足利義満）の厳島詣記に記した。明治三十八年一月　神苑開墾の記念碑が氏子により建立され、厳島詣記の一節が碑文に刻まれている。

碑文（漢文和訳）

元中六年二月一三日、この国の国府の南、高はまといふ浦ばたの三田尻といふ松原に御旅所を立たり。この松原はそのかみ厳島の明神、爰（ここ）に天くだりまして、今の厳島にはうつらせ給ひければ、げにも神さびたるなり。

しろがねをしけるやうなるいさご　西東の洲崎の中を、入江のやうに二すじばかり、しほさしいりて、浦松のいたくがまりて、木高からで、枝さしおいかやうなるむらむらおひて、その中、御社の旧（ふ）りたるぞおはします。

まつ原やたか洲の木ずゑこゆるまで
月の出じほのふけにけるかな　貞世